

私

の

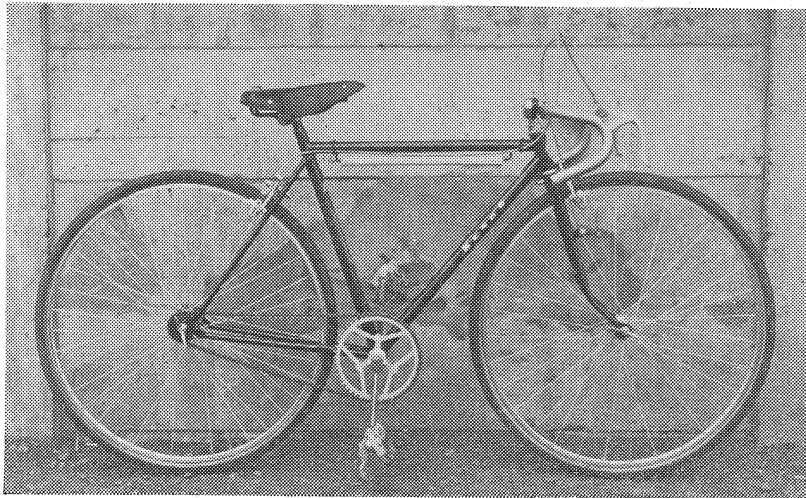
自

転

車

—— スペツシヤル・クラブモデルの試作 ——

山 本 秀 男



スペツシヤル・クラブモデル試作

(光風 KENKO)

仕 様 書

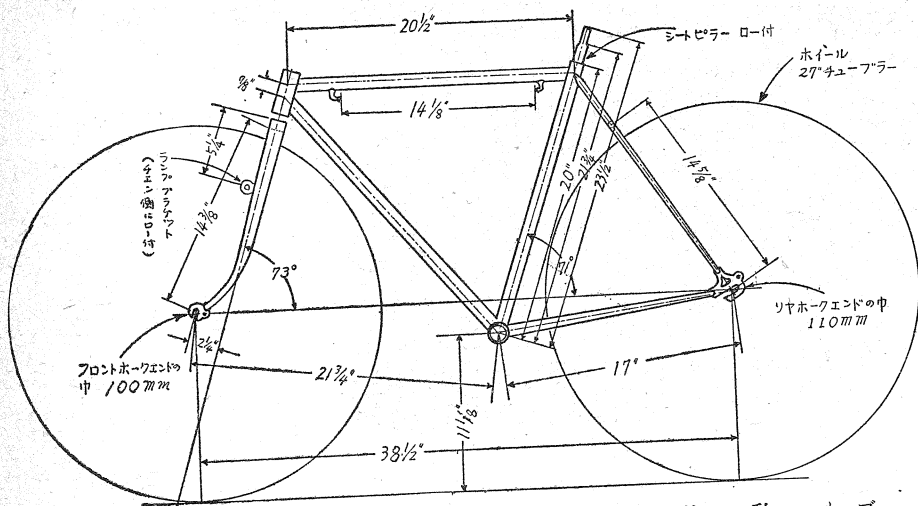
- フ レ ー ム:** 20", ヘッドアングル73°, シートアングル71°  
スリーストロング・ハイマンガン・ダブルバツ  
テット・チューブ、ポンプベツツ、ランプブラ  
ケツト、ブレイズドオン、シートピラー固定、  
ダイヤモンド型・ラグレス・ロードエンド、ボ  
ンデライジング不誘性処理
- ホ イ ー ル:** 27"×1 $\frac{1}{8}$ " ソーヨー・チューブラータイヤ、同  
アラヤ軽合金リム、スポーク#15、青山製軽合  
金鍛造レーサーハブ
- ハンドルバー:** 日東製15/16"軽合金マース型ドロツプ
- ハンドルステム:** 日東製肉厚1.2ミリハイマンガン鋼・チューブ  
によるパイプコンストラクシヨン、ステム長4 $\frac{1}{2}$ "
- ブ レ ー キ:** 東京ブレーキ製新軽合金鍛造サイドプル式キャ  
リパーブレーキ、フツデツドレバー
- チェンホイール:** 関東ギヤ製軽合金47T、クランクはクロームモ  
リブデン鋼製6 $\frac{1}{2}$ "
- フリーホイール:** 16T (ギヤテーパー79.3") 及び18T (ギヤテ  
ーパー70.5") のダブルコグ
- ペ ダ ル:** 三ヶ島製軽合金製レーシングタイプ・ラット・  
トラツプ、土屋製トクリツプ及びビストラツプ
- サ ド ル:** 藤田製YFC#17ナロー
- マツドガード:** 川原製軽合金
- アクセサリ:** マテツクス・インフレーター、スコツチライト  
小型ベル
- 総 重 量:** 10.4kg

はじめに  
公道を走っているという条件  
の許す範囲内において、きれ

に舗装された道路を快適なスピードをも  
つて走るといふことは、サイクリングの  
醍醐味である。私達はよく砂利道も走る

が、やむを得ずして走るのであつて、田  
園に山間の村落にそして溪谷に沿つて、  
峠の向うまで、白く白く舗装路が延びて  
いけば、私は好んで砂利道を走らうとは  
しないだろう。幸に私たちの住む東京周  
辺は、特に私の家のある西部は非常によ  
く舗装され、仮に砂利道に入つても、多  
くの場合間もなく舗装路を走ることがで  
きる。そして、もし舗装がぎれていても  
武蔵野の面影をしのぶ道も極く細い道を  
わけ入れれば、地道でこれまた走りよい。  
トラツクの通るところ以外は一。

スペシャル・クラブモデル 試作のキープラン 山本秀男



未知の土地を探るのでなければ、ま  
たどうしても非常に長い間悪い道をする  
のでなければ、好んで太いタイヤのつ  
いた重装備の自転車を使うことは、私の場  
合なわけである。だから私は、一歩時

のタイヤもよし、六五〇Bといわれる極  
く太いタイヤの捨て難い味というものを  
知りつつも、一歩時のタイヤを最も愛し  
て来たし、現在もなお愛し続けている。  
これは、とりもなおさず、より軽い車を  
意味するからである。

私がスペシャル・クラ  
ブモデルの試作をするつ  
もりになったのも、実は  
いままでに述べたような  
私の考えによるものであ  
つて、私の住む所の地理  
的条件と、結局は自転車  
に乗ること自体が一番楽  
しいという、私のサイク  
リングの楽しみ方による  
ものである。つまり、そ  
ういう車に乗りたいたか  
らである。そして、サイク  
リングがスポーツとして  
の分野で、非常に大きな  
楽しみのあることを感ず  
るからである。

スペシャル・クラ  
ブモデルについて

スペシャル・クラブモ  
デルについては今まで余  
り語られていなかったの  
で、サイクリング・ハン  
ドブック(前田安雄氏著)  
の二五頁から引用して、  
一応車種の説明をしてお

きたい。

「形はクラブ(筆者注)クラブ・モデ  
ル」と殆ど変わりませんが、さらに高級  
な車種で二六吋又は二七吋ハイプレツ  
シャム・タイヤを装備し、特殊鋼のパ  
ツデッド・チューブもこの種の車に使  
われています。この型はクラブ・ラン  
にも相当利用されていますが、ストリ  
ップにして(筆者注)マッドガードを  
外して)ロード・レースにも流用でき  
るので、軽量とスピードが要求され、  
クラブ型より更に高級な軽い部品を使  
つてある他、角度も幾分立ち、ホーク  
オフセットも短くなっています」  
この一節でそのアウトラインは掴める  
と思うが、こういう車はいまの所残念な  
がら日本では作られていないし、これに  
近いものはあつても、之がスペシャル・  
クラブだということになるが、万能車でない  
ことを先ず知らねばならない。そして今  
流行しかけていような、ブレイズド・  
オンをフルに採用して高級車と称する種  
類の車とは、自ずとタイプを異にしてい  
る。

私のもくろみ

私はスペシャル・クラブを作るのは初  
めてであり、作るメーカーも初めてであ  
る。こういう条件である以上、これは文  
字通りの試作であつて、オーダーメイド  
といわれる作り方とは一寸違うような気  
がする。大体試作に素人が手を出すとい

うことは損なことで、気に入らない所が  
あつても文句のいえない場合が出てくる  
ものである。例えば自分のプラン自体に  
誤りが出てくる場合もあるし、仮に図面  
通りに出来ても、細部に目論見外れが出  
る場合がある。だからこそ試作といわれ  
るわけだが、そんな苦労をするより市販  
品の中から、これぞと思うものを選ぶこ  
とが一番手固い筈である。だが、この損  
な試作をやつたのも、メーカーが未だこ  
のタイプの車を発売してくれないからで  
ある。だから私は、試作は成る可く止め  
た方がいいと思う。

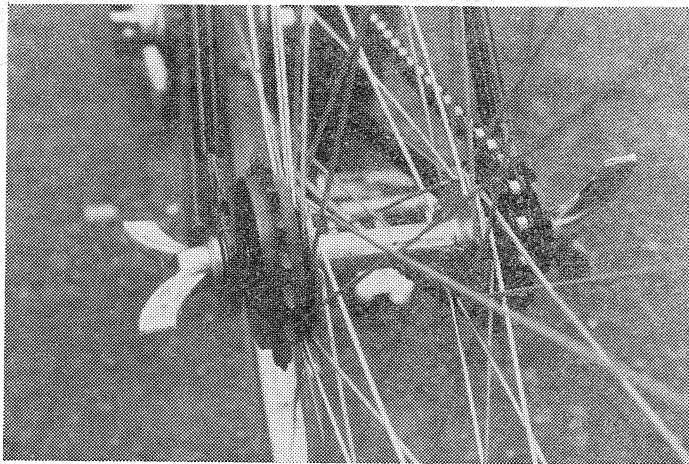
しかし、それでも作りたかつたのだか  
ら、私には私なりの目論見というものを  
持つていた。イメージに画いた自転車を  
作り上げてみたかつたのである。

ここでお断りしなければならぬのは  
試作といつても、これは正確には設計と  
いう言葉は私には使えない。それは私の  
画いた図面は、私自身の計算にとどまる  
もので、早くいえば一つのアイデアの表  
現形式であり、いわゆる鍵になる案つま  
りキープランである。そのためにこのキ  
ープランの中核となるフレームの製作に  
は、キープランを正式な設計に前進させ  
ることの出来る友人に頼まねばならな  
かつた。私は之を宮田実氏に依頼した。宮  
田実氏は光風自転車のフレームを作つて  
いる同世代の技師である。

一寸横道へそれてしまつたが、私のキ  
ープランのあらましをここで紹介する必

要があると思う。  
 即ち、スピードデーナ車に仕立てること  
 が第一、次が簡素であること。私の考  
 えては複雑な自転車ほど飽きが来る。一  
 番飽きないのはオーソドックスなタイプ  
 であり、しかも一番美しいのは簡素なこ  
 とであると思う。簡素こそ美の極致だと  
 考えたので、まずその点を実現したと思  
 った。そのためブレイズド・オン（ボス  
 やケーブルアイ・またブラケット類など  
 をフレームにロー付けしてしまうこと）  
 は最少限にとどめることをまず計画し

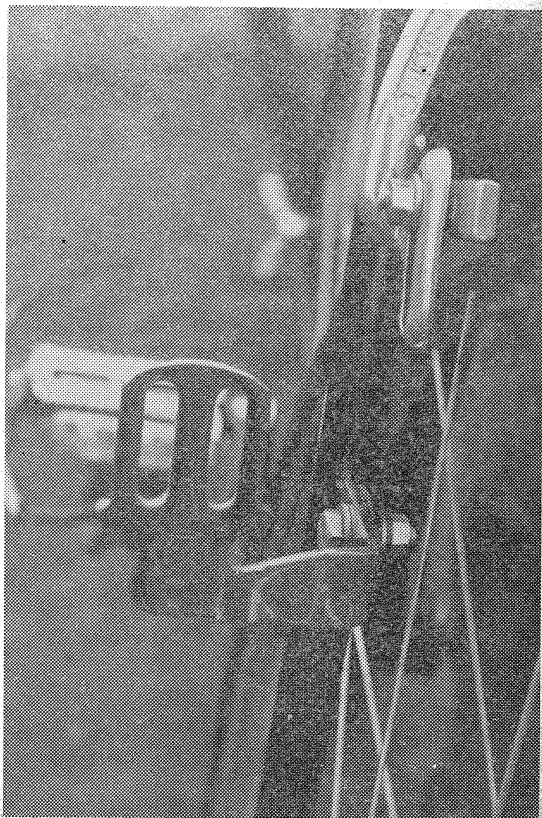
た。  
 問題の軽量化はスピードデーナという第  
 一条件をかなえるために非常に大きな役  
 割を果すことになるので、強度に信頼の  
 出来る範囲でこれを実現するように努力  
 することにした。  
 更に、これは個人の好みによるが、  
 この車に限ってデイレアラームハブギヤ  
 もつけないことにした。それは軽量化さ  
 れた自転車は、舗装路の場合、変速機が  
 なくても登坂にさして不自由を感じない  
 ことを、経験的に知つたからである。  
 そして最後に、角度、寸法だ  
 けは、とくに厳しく注文した。  
 だが何分にも試作であり、一  
 へんで気に入るものが出来ると  
 は考えられなかつたし、今後い  
 ろいろな誤りが発見されないとい  
 も限らないので、フレーム材料  
 の選択には一寸ためらつてしま  
 い、この種の車ではどうしても  
 使いたいD×Dクロムモリブ  
 デン鋼ダブルパツテッド・チュ  
 ープを使用せず、あえてスリー  
 ストロング印ハイマンガン・ダ  
 ブルパツテッド・チューブを採  
 用した。確信がつかない限り必ずD  
 ×Dで作りたいと思つている。



リヤホイールのダブルコグ

### 部品の選択

いつでも失敗するが、部品を  
 全部揃えてからでない、フレ  
 ームの設計は完全には出来にへ



ホークブレードにつけたランブラケット

い。そのために私は部品をまず選択し、  
 自分で集めた。試作である以上、部品の  
 選択は自分でやらねば気がすまなかつた  
 からである。部品の選択に当つては軽量  
 化を可能な限りで実現することに意を注  
 したが、各部品は次のようなものを選択  
 した。

### 1、ホイール

- タイヤ：漢陽製チューブラー練習用  
 一〇呎、廿七吋×一又半吋
- リム：新家製廿七吋×一又半吋用  
 スポーク：#一五ブレイン
- ハブ：青山軽合金鍛造純レーサー  
 ダブルコグ用

私の場合ホイールは廿六吋が欲しいの

だが、残念乍ら日本には廿六吋ハイブレ  
 ツシャータイヤがない。仕方がないので  
 チューブラー（丸タイヤ）の廿七吋×一  
 又半吋を採用した。練習用一〇呎といわ  
 れるもので、レース用に使われているも  
 のよりも重い、ロードにおける使用に  
 充分耐えられるものと思ひ、一〇呎を採  
 用したわけである。この場合リムは金属  
 性ではアラヤリムのチューブラー用しか  
 ないので、当然これを使用した、重量  
 の軽いことでは申し分がない。ただ廿六  
 吋のハイプレツシャールが出来たら早速取  
 替えたいと思う。それはチューブラーの  
 方がパンク修理もW/Oタイヤより面倒  
 だし、その為スベアタイヤを持たねばな

のは、間違いで何とも恥しいが、ど  
 うも、まっつものだから仕方

一般市場に出ていないので古いものを使  
 うわけだが、やはり生産して市場に出し  
 たい、まっつものだから仕方

したままでカーブをしても巾が狭いため  
 地面に当る率が非常に少ないからであ  
 る。重量も現在では一番軽いし、いまま